

〔東京特産野菜品種の育成（第2期）〕

夏用ワケネギ品種の育成

沼尻勝人・野口 貴・海保富士男・荒木俊光*

（園芸技術科）*現中央普セ

【要 約】夏用ワケネギには、「配布系統」と比べて「C-2」はやや濃緑で1本重に優れ、「13」は濃緑で上物率が高いため有望である。また、抽台株率は「配布系統」の93%に対し、「C-2」は25%、「13」では1.3%と極めて少ない特徴がみられた。

【目 的】

埼玉県種苗センター配布系統（2005年度まで農総研で配布）は、夏期に葉色が薄く、葉鞘が細くなるなど品質の低下が著しい。そのため、夏期栽培で収量、品質ともに優れる系統を選定するため江戸川分場で収集した系統や交配した系統を供試し、2007年に「C-2、13」の2系統を有望系統とした。本試験では、有望系統の栽培特性を引き続き調査し、今後生産現場での試験栽培を行うための資料とする。

【方 法】

「配布系統」および農総研選抜系統「C-2、13」（表1）を、2009年10月13日に株間20cmの2条植えて黒マルチに定植した。定植後の株の抽苔を6月4日まで調査した。露地栽培では、2010年6月9日にそれらの株を掘り上げ1本ずつに分け、畝幅70cm、株間20cmとし、白黒ダブルマルチ上に定植した。基肥はN-P₂O₅-K₂Oを成分量で12-18-12kg/10a施用した。施設栽培では7月15日に株を掘り上げ、異なるフィルム（表3注釈）を展張したパイハウス3棟に露地栽培と同様に定植し、無農薬で栽培した。収穫調査は、露地栽培は9月28日および10月13日、施設栽培では10月27日に行った。

【成果の概要】

1. 抽苔は「配布系統」で多く、93%の株に認められたのに対して、「C-2」では25%、「13」では1.3%と低かった（図1）。
2. 露地栽培：「配布系統」は分けつが多く葉が細くなったため、1本重は小さく品質が悪く上物率は低下した。一方、「C-2」は分けつ数や調整本数は「配布系統」よりも少ないが、1本重は大きく株重や調整重に優れ、上物率は高かった。「13」は分けつ数や調整本数では「C-2」より劣るが、葉鞘の形状が優れた品質の高いものも多く、上物率は「C-2」より高かった（表2）。
3. 施設栽培：UV360およびUV380では露地栽培と同様の傾向が強かったが、Normalでは「C-2、13」の生育は悪く、収量も大きく減少し、「配布系統」と同等であった。本試験では無農薬で栽培したため、特にNormalではアザミウマの被害が著しく、すべての系統の生育が悪かった（表3、図2）。
4. まとめ：夏用ワケネギには、「C-2」はやや濃緑で1本重に優れ、「13」は濃緑で上物率が高いため有望である。また、抽台株率は「配布系統」の93%に対し、「C-2」は25%、「13」では1.3%と極めて少ない特徴がみられた。今後、有望系統については現地に試験配布すると同時に、夏用以外の栽培適性を調査する。

表1 ワケネギ系統の概要

系統名	導入元	夏期栽培時の特徴 ^a			
		葉色	太さ	長さ	葉折れ
配布系統	埼玉県種苗センター配布系	やや濃緑	細	中	多
C-2	平成12年江戸川分場で採取	やや濃緑	太	長	中
13	平成4年江戸川分場での交雑系統	濃緑	やや太	中	少

a) 2004, 06, 07年の調査結果より作成

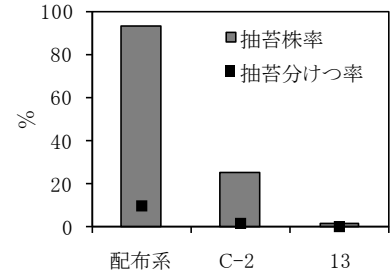


図1 ワケネギ配布系統および選抜系統の露地栽培における抽苔率
2009年10月13日定植
2010年6月4日まで調査

表2 ワケネギ配布系統および選抜系統の露地栽培における特性

収穫日	系統名	株重	調整重	1本重	草丈	株張り	分けつ数	調整本数 ^y	上物本数 ^z	上物率
		g	g	g	cm	cm				%
9月28日	配布系統	642 a ^x	427 a	6.7 a	61 a	6.6 ab	14.6 a	63 a	9.6	15 a
	C-2	851 b	570 b	17.9 b	74 b	7.2 a	10.1 b	32 b	9.3	29 b
	13	419 c	278 c	13.3 c	56 c	5.9 b	8.2 b	22 b	10.8	48 c
10月13日	配布系統	630 ab	458 ab	5.2 a	67 a	7.6 ab	15.8 a	91 a	11.6	13 a
	C-2	856 a	601 a	15.2 b	79 b	8.9 a	8.3 b	40 b	9.8	24 b
	13	437 b	338 b	17.1 c	62 a	6.1 b	6.8 b	20 b	12.3	62 b

x) scheffe法により各収穫日の同一列内の異なる文字間には5%水準で有意差がある(n=14-16)

y) 葉長が短すぎるものや障害株を除き, 葉数を2~3枚付けられるもの

z) 調整本数のうち葉鞘部の形が整っているもの

表3 ワケネギ配布系統および選抜系統の施設栽培における特性

系統名	フィルム ^x	株重	調整重	1本重	草丈	株張り	分けつ数	調整本数	上物本数	上物率	虫害 ^z 被害度
		g	g	g	cm	cm				%	
配布系統	Normal	75	50	5.4	38 a ^y	3.4 a	4.6 a	9.2 a	1.6 a	17	100
	UV360	176	104	8.3	49 b	4 a	4.6 a	12.6 ab	1.2 a	10	77
	UV380	128	75	5.4	47 b	3.4 a	5 a	13.8 b	1.6 a	12	47
C-2	Normal	86	56	11.2	49 a	3.1 a	4.2 a	5 a	3.6 a	72	100
	UV360	316	177	26.3	64 b	4.9 b	6 a	6.8 a	4.8 a	71	71
	UV380	260	157	30.2	66 b	3.9 a	5 a	5.4 a	4.2 a	78	60
13	Normal	82	54	11.9	48 a	3 a	4.4 a	4.6 a	4.2 a	91	100
	UV360	239	146	25.4	59 a	4.4 b	5.4 a	5.8 a	4.4 a	76	57
	UV380	211	133	23.7	56 a	4.3 b	6.4 a	6.4 a	6.4 a	100	47
分散分析	系統	**	**	**	**	ns	ns	**	**		
	フィルム	**	**	**	**	**	ns	**	ns		
	交互作用	**	**	*	ns	ns	ns	ns	ns		

x) Normal: 慣行POフィルム(全光線透過), UV360およびUV380: 数値以下の近紫外線を除去するフィルム

y) scheffe法により各系統の同一列内の異なる文字間には5%水準で有意差がある(n=5)

z) アザミウマ類による被害指数を0(無)~3(甚), 被害度 = $\Sigma \{ (指数 \times 該当数) / (3 \times 調査数) \} \times 100$ とした

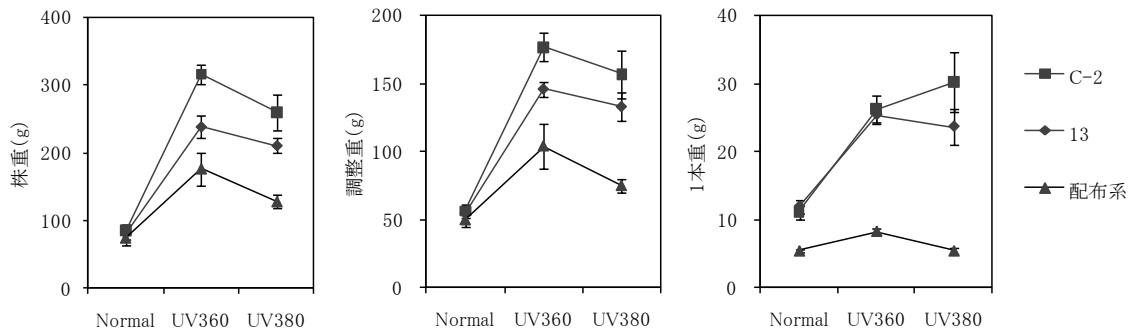


図2 ワケネギの施設栽培における株重, 調整重および1本重
図中の縦棒は標準誤差(n=5)